

中国語の量化表現 dou(都)に関する一考察

王 慶

(九州大学大学院)

oukei@lit.kyushu-u.ac.jp

キーワード：全称量化、分割、dou(都)

1. はじめに

中国語のdou(都)をめぐるのは、さまざまな議論がなされているが、その統語的・意味的な働きは、まだ明らかになっていない。本論文では、まず2節で説明対象となる現象をまとめて、3節で量化表現douが引き起こす解釈とその分布が説明できるような分析を提案する¹。そして、4節でdouに関するCheng(1995)の研究を紹介した上で、5節に今後の課題をあげる。

2. 説明対象となる現象

多くの文献で指摘されているように、douの左側には、通常、複数解釈²のNP

¹ 中国語では、以下のようにdouが量化表現ではなく程度を表す場合もあるが、本論文では、この構文には言及しない。

(i) 小明 都 伤心得吃不下饭了。

Xiaoming dou shangxin de chi bu xia fan le

小明 DOU 悲しい DE 食べる ない ご飯 ASP

'小明はあまりにも悲しくて、ご飯も食べられないほどだ。'

² 「连(LIAN)」という形態素を伴うNPも、「複数解釈」と考えなければならないようである。

(i) 连 小明 都 去过这座城市。

lian Xiaoming dou qu guo zhe zuo chengshi

LIAN 小明 DOU 行く ASP これ CL 町

'小明さえもこの町へ行ったことがある。'

がなければならない。(Li and Thompson 1981, Lee 1986, Cheng 1991, 1995, Wu 1999)

(1) a. *³小明 都 去 过 这座⁴ 城市。
Xiaoming dou qu guo zhe zuo chengshi

小明 DOU 行く ASP これ CL 町

b. 他们 都 去 过 这座 城市。
ta men dou qu guo zhe zuo chengshi

彼 PL DOU 行く ASP これ CL 町

'彼らは全員それぞれこの町へ行ったことがある。'

その複数解釈の NP は、主語に限られているわけではない。(2)のような文の場合ならば、主語そのものは単数でも容認可能になる。

(2) a. 小明 这些 城市 都 去 过。
小明 これ PL 町 DOU 行く ASP

'小明はこれらの町へ全部行ったことがある。'

b. 这些 城市 小明 都 去 过。
これ PL 町 小明 DOU 行く ASP

'これらの町は小明が全部行ったことがある。'

ただし、dou の左側に複数解釈の NP さえあればよいかというと、そうでもない。

(3) a. *小明 和 小红 都 是 夫妻。
Xiaoming he Xiaohong dou shi fuqi

小明 と 小紅 DOU である 夫婦

b. *他们 都 吃 掉 了 那 个 苹果。
ta men dou chi diao le na ge pingguo

³ 本論文では、容認不可能な文、意味解釈ができないものに「*」をつけることにする。

⁴ gloss中、「PL」は複数(plural)を表し、「CL」は助数詞(classifier)を表す。

彼 PL DOU 食べる 終わる ASP あれ CL りんご

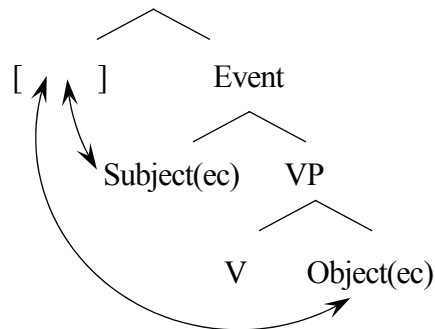
以上のように、**dou** は自分の左側に複数解釈の NP さえあれば、容認可能になるわけではないようである。**dou** は一体どういうものであるかについて以下で提案を行う。

3. 分析

3.1. 提案

本論文では、中国語の節構造を概略(4)のように仮定し、**dou** 構文を(6)のような構造であると仮定する。

(4) 中国語の節構造：



(4)に書いてあるとおり、そもそも中国語の節構造(特にTopicalization現象など)を考える際に、移動を考えるのではなく、Event内にある要素はEventの外にある要素とlink関係⁵で結ばれていると考えたい。Event内においては、VPを中心に、必ずVの θ 役割付与に必要な項の位置(以下ではSubjectとObjectだけについて考える)を設けなければならない。

そして、Subject と Object の位置に関して、以下の(5)のような仮定をする。

(5) 空所(ec)に関する仮定：

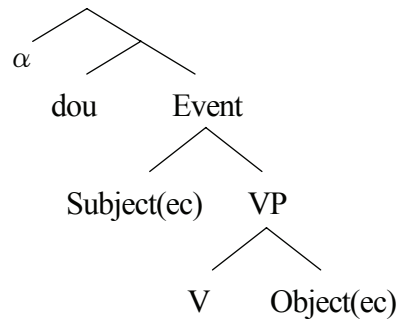
- Event 内の Subject と Object の位置は、しばしば空所(ec)になる。
- Event 内に空所(ec)があらわれた場合、Event を c-command する位置にそれと適切な形で link しなければならないものが必要である。
- link 関係が結ばれた結果、空所(ec)は link 先のものと同じ性質を持つことになる。
- link 関係は述部(predicate)の選択制限(selectional restriction)によって決

⁵ 以下では、このlink関係を(4)のような矢印付きの曲線で表す。

まる。

一方では、*dou* に関しては、以下の(6)の構造を考えている。

(6) *dou* 述語文の基底構造：



dou に関して、(6)に基づいて、以下の(7)の仮定がある。

(7) *dou*に関する仮定⁶：

- a. *dou* は *Event* の *Spec* 位置にある要素である。
- b. *dou* は α ⁷ と *Event* を項に持つ述語文の *head* である。

このような節構造を仮定した上で、*dou* の果たす役割として(8)を提案する。

(8) *dou* によって引き起こされる操作：

dou の項に当たる要素(α と *Event*)は、*dou* の影響によって、分割操作 (*distributing*)を受けなければならない。

この(8)の操作は具体的に section 3.2 以降で説明する。

3.2. 複数解釈の名詞が主語の場合

まず、この分析で(9)の解釈がどのように導かれるかを説明する。

- (9) a. 他们 去过 这座 城市。
ta men qu guo zhe zuo chengshi

⁶ これに関して、例外もあるが、それは、今後の課題として挙げる。

⁷ α については、いろいろなものが想定できるが、ここではNPだけを扱う。

彼 PL 行く ASP これ CL 町

- i. '彼らはこの町へ行ったことがある。'
- ii. '彼らは全員それぞれこの町へ行ったことがある。'
- b. 他们 都 去过 这座城市。 [= (1b)]

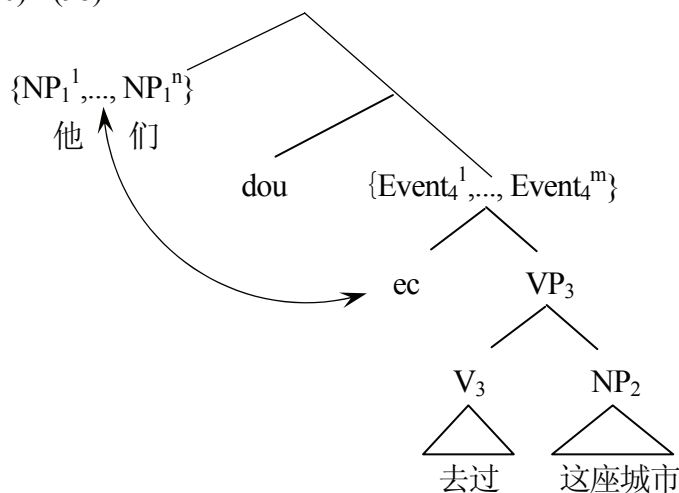
ta men dou qu guo zhe zuo chengshi

彼 PL DOU 行く ASP これ CL 町

'彼らは全員それぞれこの町へ行ったことがある。'

(9a,b)の対立から分かるように、(9a)では、「この町へ行ったことがある」という Event が「彼らのうち、誰か」によって行われた解釈(i)もできれば、「彼ら全員それぞれ」にわたって、行われたという解釈(ii)もできる。これに対して、(9b)のように、dou があらわれた場合、(9a)の解釈(ii)と同じ解釈しかできない。そこで、(9b)の LF を(10)のように仮定する。

(10) (9b)の LF :



(11) dou の項に当たる要素(α と Event)は、dou の影響によって、分割操作 (distributing)を受けなければならない。 [= (8)]

(11)の操作は、(9b)の例を使って、具体的に、以下の(12)と(13)に分けて実行されると考えられる。

(12) α (NP _{α})の分割 :

- a. 分割対象のNP _{α} には、必ず複数に分割可能な中身がなければならない。

- b. douは自分をc-commandしているNP_αを、n個の中身からなる集合{NP_α¹, ..., NP_αⁿ}に分割しなければならない。
- c. この分割は、対象になるNP_αの中身にあまねく行き渡る必要がある。

(13) Event_βの分割：

douは自分がc-commandしているEvent_βを、m個の{Event_β¹, ..., Event_β^m}に分割しなければならない。

(12)と(13)の操作の結果、NP_αもEvent_βも、もう一個のものではなく、複数の{NP_α¹, ..., NP_αⁿ}と{Event_β¹, ..., Event_β^m}からなる集合となる。

$$(14) \text{ a. } \sum_{\alpha}^n \text{NP}_{\alpha} = \{[\text{NP}_{\alpha}^1] + [\text{NP}_{\alpha}^2] + [\text{NP}_{\alpha}^3] \cdots + [\text{NP}_{\alpha}^n]\}$$

$$\text{ b. } \sum_{\beta}^m \text{Event}_{\beta} = \{[\text{Event}_{\beta}^1] + [\text{Event}_{\beta}^2] + [\text{Event}_{\beta}^3] \cdots + [\text{Event}_{\beta}^m]\}$$

そして、Event_βのdomain内に空所(ec)が現れているので、(5)の条件を守らなければならない。つまり、Event_βの中にある空所がEvent_βの外にあるNP_αとlinkして、その結果、ecの数(=Event_βの数)もNP_αに合致しなければならないため、Event_β集合の中身の数mもnになる必要がある。

$$(15) \sum_{\beta}^n \text{Event}_{\beta} = \{[\text{Event}_{\beta}^1] + [\text{Event}_{\beta}^2] + [\text{Event}_{\beta}^3] \cdots + [\text{Event}_{\beta}^n]\}$$

以上に基づくと、(9b)の意味解釈は具体的に(16)のようになっている。

(16) ^{OK}8 {^{OK}「Aはこの町へ行ったことがある」, ^{OK}「Bはこの町へ行ったことがある」 ... , ^{OK}「Nはこの町へ行ったことがある」}

このような解釈が成り立つのも、ec とリンクしている「他们(彼ら)」が個体の集合であり、分割という操作が可能だからである。

ところが、(12b)によれば、(17)のように、ecがリンクしている要素がそれ以

⁸ 以下では、意味解釈ができるものに「ok」をつけることにする。

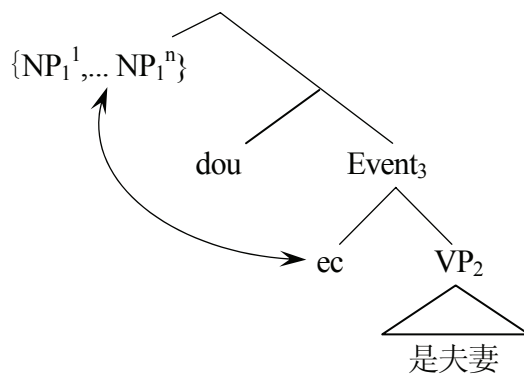
上分割を許さない「小明」の場合には、非文となる⁹。

- (17) *小明 都 去过 这座城市。
 Xiaoming dou qu guo zhe zuo chengshi
 小明 DOU 行く ASP これ CL 町

また、(18)が容認不可能なのは、分割操作そのものは可能であるものの、ecの部分に埋められるのは[x&y]という解釈が可能なタイプのものでないと成立しないからである。

- (18) *小明 和 小红 都是夫妻。 [= (3a)]
 Xiaoming he Xiaohong dou shi fuqi
 小明 と 小红 DOU である 夫婦
 '小明と小红は皆夫婦である。'

(19) (18)の LF :



(18)の場合は、Eventの部分(19)のようになるが、「夫婦である」という述語は、NP_iが単数だと成り立たないため、(20)は解釈不可能である。

- (20) * { *「小明は夫婦である」, *「小红は夫婦である」 }

これに対して、(21)の「結婚した」という述語ならば、NP_iⁿが単数でも成り立

⁹ 注2で述べたように、「連+NP」構文の場合には、明示されているNP以外の個体の存在が前提とされているため、分割操作が可能になる。

ち、かつ、Event_βⁿが同時に成り立つため、(22)は容認可能になる。

(21) 小明 和 小红 都 结婚 了。

Xiaoming he Xiaohong dou jiehun le

小明 と 小紅 DOU 結婚する ASP

'小明と小紅はそれぞれ結婚した。'

(22) ^{OK}{^{OK}「小明は結婚した」,^{OK}「小紅は結婚した」}

また、(23)の場合は、Eventの部分(24)のようになる。これは、1つ1つのEvent_βⁿは解釈可能であるが、n個のEvent_βⁿが同時に成り立つことが不可能なため、全体としては解釈不可能になる。

(23) *他们 都 吃 掉 了 那个 苹果。 [= (3b)]

ta men dou chi diao le na ge pingguo

彼 PL DOU 食べる 終わる ASP あれ CL りんご

'彼らはみなあのりんごを食べきってしまった。'

(24) * {^{OK}「Aがあのでりんごを食べきってしまった」,^{OK}「Bがあのでりんごを食べきってしまった」,...,^{OK}「Nがあのでりんごを食べきってしまった」}

(25)の場合には、(24)に対応する集合が成立可能なため、(26)は容認可能となるのである。

(25) 他们 都 吃 了 那个 苹果。

ta men dou chi le na ge pingguo

彼 PL DOU 食べる ASP あれ CL りんご

'彼らはそれぞれあのりんごを(一口ずつ)食べた。'

(26) ^{OK}{^{OK}「Aが(一口)あのりんごを食べた」,^{OK}「Bが(一口)あのりんごを食べた」,...,^{OK}「Nが(一口)あのりんごを食べた」}

3.3. 複数解釈の名詞が主語以外の場合

(27)の場合の分析も、本質的には同じである。「这些城市」は目的語の位置から移動してきたように見えるが、これはここに基底生成したものであると分析したい。

(27) a. 小明 这些城市 都 去过。 [= (2a)]

小明 これ PL 町 DOU 行く ASP

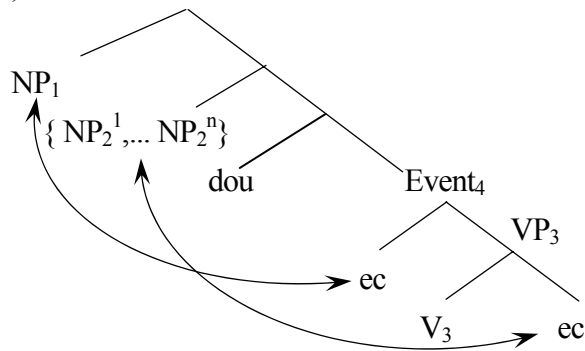
'小明はこれらの町へ全部行ったことがある。'

b. 这些城市 小明 都 去过。 [= (2b)]

これ PL 町 小明 DOU 行く ASP

'これらの町は小明が全部行ったことがある。'

(28) (27a)の LF :



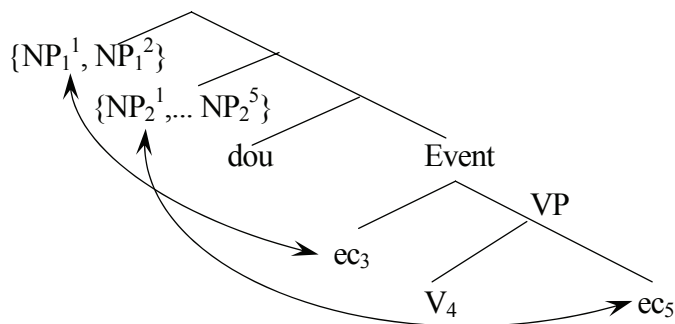
(27)の「小明」はこれ以上分割できない要素であるが、「这些城市(これらの町)」は、 $\{A, B, \dots, N\}$ という個体の集合を指しており、この場合は、Eventの部分には次のような命題の集合に相当することになるので、求められる解釈が正しく導かれる。

(29) ^{OK} {^{OK}「小明はA(という町)へ行ったことがある」, ^{OK}「小明はB(という町)へ行ったことがある」, ..., ^{OK}「小明はN(という町)へ行ったことがある」}

次の(30)では、NP₁の「他们」とNP₂の「这五座城市」はいずれも複数解釈のものである。

- (30) a. 他俩 这五座城市 都 去过。
 ta lia zhe wu zuo chengshi dou qu guo
 彼二人 これ五つ CL 町 DOU 行く ASP
 '彼ら二人はこの五つの町へそれぞれ行ったことがある。'
- b. 这五座城市 他俩 都 去过。
 'この五つの町は彼ら二人がそれぞれ行ったことがある。'
- c. 他俩 都 去过 这五座城市。
 '彼ら二人はこの五つの町へそれぞれ行ったことがある。'

(31) (30a)のLF :



(31)のLFは基本的には(28)と同じであるが、NP₁「他们」とNP₂「这五座城市」は複数解釈なので、ともに分割される。(30a,b,c)のように、順番を入れ替えても、意味解釈は似たり寄ったりである。

4. Cheng(1995)

本論文の分析とはアプローチが異なる dou の研究としては、その代表的なものとして、Cheng (1995)があげられる。

Cheng (1995)では、(32)のような「複数を表す通常の NP [regular NPs (plural)]」を含む構文について、(33)のように移動による派生があると述べている。

- (32) 那些 学生 都 来了。 [Cheng 1995:213(38a)]
 nei xie xuesheng dou lai le
 あれ CL 学生 DOU 来る ASP
 'あの学生たちはみんな来た。'

- (33) a. [[those students] all]_i t_j t_i came [Cheng 1995:213(38b)]
 b. $\forall x, x = \text{those students}, x \text{ came}$ [Cheng 1995:213(38c)]

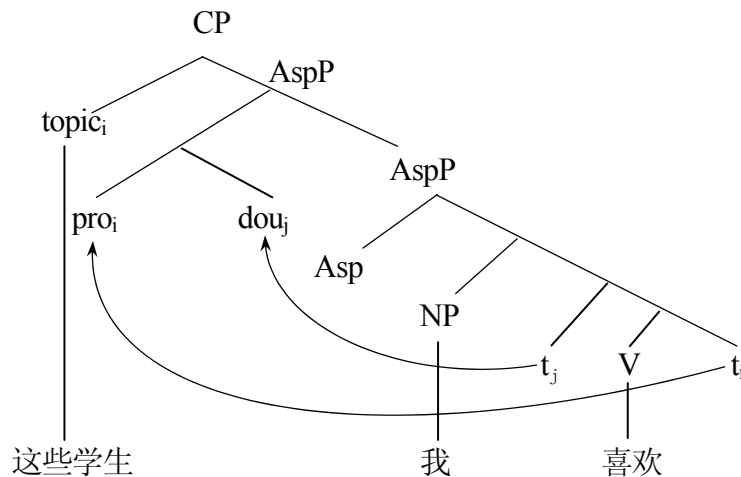
(33a)のように、douはまずthose studentsというNPに付加する。NPはdouが付加することによって、quantifierになる。そして、[NP+dou]が全体でQRし、bindできるvariableのt_jを作り出すという。

一方、(34)のような topic 構文に関しては、派生の仕方が異なる。

- (34) 这些 学生 我 都 喜欢。 [Cheng 1995:214(40a)]
 zhe xie xuesheng wo dou xihuan
 これ PL 学生 わたし DOU 気に入る
 'この学生たちを私はみんな気に入っている。'

(35a)のように、そもそも[这些学生]というものは文頭位置に生成されるtopicであって、このtopicと対応するθ-positionには、空の代名詞proが基底生成される。そして、このproは、Demirdache 1991 に従って再述代名詞 (resumptive pronoun) であるため、LFにおいて、最も近いAspPに付加移動する。それから、douはQRをしてproに付加して、proのトレースに当たるt_jをbindするようになるという。

- (35) a. (34)の LF :



- b. Speaking of [these students]_i, $\forall x, x = \text{pro}_i, I \text{ like } x$

しかし、wh-word[谁]がある(36)の構文では、wh-word は移動せず、基底生成された位置で dou に bind される変項にならなければならない。dou は wh-word

を m-command さえしていれば、bind できるという仮定が立てられている。

(36) [AspP[誰] [Asp 都 [VP[V 给 李四 写了 信]]]]. [Cheng 1995:220(50b)]

shei dou gei lisi xie le xin

だれ DOU あげる 李四 書く ASP 手紙

'だれでも李四に手紙を送った。'

以上のように、dou に関して、Cheng(1995)の研究では実にさまざまな LF 移動が仮定されているが、そのどれもが、何のために、なぜ、移動しなければならないかが明らかにされていない。このような分析では、dou の本質を見極めることができない。

5. 今後の課題

以下の現象は、本論文の提案だけでは説明できない。

まず、dou 述語文に wh-word 疑問語があらわれる場合の解釈が問題となる。

(37) 谁 都 会 来。

shei dou hui lai

だれ DOU できる 来る

'誰でも来るだろう。'

(37)のような wh-word[誰]がある構文では、全称量化の解釈は可能であるが、wh と dou の位置を入れ替えると、なぜか、全称量化ではなく、疑問解釈になる。

(38) 都 谁 会 来?

dou shei hui lai

DOU だれ できる 来る

'一体だれが来そうなの?' (複数の人間が来る可能性があるという前提で)

また、(39)で意味解釈が多義的になるのは、ec と link 先の結びつきが異なるからだと考えられる。link 関係がいったいどうやって結び付けられるのかという点も説明されなければならない。

(39) 他们仨, 我俩 都 ec 表扬 ec 过。

ta mensa wo lia dou biao yang guo

彼 PL 三人 私 二人 DOU ほめる ASP

a. '私たち二人はそれぞれ彼ら三人をほめたことがある。'

b. '彼ら三人はそれぞれ私たち二人をほめたことがある。'

さらに、(40a)のような「一些人」などの *indefinite NP* がなぜ *dou* によって量
化されないのかという問題もある。

(40) a. *一些人 都 去过 这座 城市。

yi xie ren dou qu guo zhe zuo chengshi

一 PL 人 DOU 行く ASP これ CL 町

b. 这些人 都 去过 这座 城市。

zhe xie ren dou qu guo zhe zuo chengshi

これ PL 人 DOU 行く ASP これ CL 町

'この人たちはみなこの町へ行ったことがある。'

こういった疑問点も合わせて、今後の課題としたい。

謝辞

本稿は、日本語学会第 138 回大会 (2009 年 6 月、神田外語大学)において発表
した内容に加筆、修正を施したものです。大会発表から本稿の執筆にいたる
までの過程でご指導をいただいた、九州大学の稲田俊明先生、坂本勉先生、久
保智之先生、上山あゆみ先生に心から感謝申し上げます。また、本稿の執筆に
あたり、匿名査読者の方からたいへん貴重なコメントやご助言を数多くいただ
きました。ここに記して感謝を申し上げます。なお、本稿の不備や誤りはすべ
て筆者の責任です。

参考文献

Cheng, Lisa L-S (1991) *On the typology of wh-questions*. Ph.D. dissertation, MIT,
Cambridge.

Cheng, Lisa L-S (1995) On *dou*-quantification. *Journal of East Asian Linguistics* 4,

197-234.

- Demirdache, Hamida (1991) *Resumptive Chains in Restrictive Relatives, Appositives and Dislocation Structures*. Ph.D. dissertation, MIT.
- Hsyu, Shu-ing (1995) *The Syntax of Focus and Topic in Mandarin Chinese*. Ph.D. dissertation, University of Southern California, Los Angeles.
- Huang, Shi-Zhe (1996) *Quantification and Predication in Mandarin Chinese: A Case Study of Dou*. Ph.D. dissertation, University of Pennsylvania, Philadelphia.
- Lee, Thomas (1986) *Studies on quantification in Chinese*. Ph.D. dissertation, University of California, Los Angeles.
- Li, Charles N. and Sandra A. Thompson (1981) *MANDARIN CHINESE A Functional Reference Grammar*, University of California Press.
- Li, Xiao-guang (1997) *Deriving Distributivity in Mandarin Chinese*. Ph.D. dissertation, University of California Irvine.
- Wu, Jianxin (1999) *Syntax and semantics of quantification in Chinese*. Ph.D. dissertation, University of Maryland College Park.
- 黄瓚辉 (2004) 量化副词“都”与句子的焦点结构, 北京大学博士论文.
- 蒋严 (1998) 语用推理与“都”的句法/语义特征, 现代外语: 语言学与应用语言学, 第1期, 10-30页.
- 蒋严、潘海华 (1998) 《形式语义学引论》, 中国社会科学出版社, 北京.
- 袁毓林 (2005) “都”的语义功能和关联方向新解. 《中国语文》第2期.

A Note on the Quantificational Expression *Dou* in Mandarin Chinese

Qing Wang

(Graduate School of Humanities, Kyushu University)

According to the literature, *dou* in Chinese is an element which quantifies the NP preceding it. In this paper, I argue that *dou* also affects the interpretation of the Event appearing after it. I propose syntactic functions of *dou*, summarized as follows:

- i. *Dou* is located in the Spec position of the Event and is the head of the predicate taking α (an NP which c-commands *dou*) and the Event as arguments.
- ii. *Dou* divides α into n pieces.
- iii. *Dou* divides the Event into m pieces.
- iv. The operations (ii) and (iii) must universally apply to α and to the Event.

(初稿受理日 2010年3月5日 最終稿受理日 2010年7月20日)